住まいとコミュニティづくり
NPO交流会

第7回
地域交流会 in 長岡市摂田屋
―地域の個性がまちを輝かせる―

開催日時　2023年5月20日（土）
12：30～19：00
開催場所　割烹 新喜屋

主催　一般財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団

後援　長岡市　ミライ発酵本舗株式会社

協力　機那サフラン酒本舗保存を願う市民の会

開会挨拶

松本 昭氏
ハウジングアンドコミュニティ財団　専務理事
住まいとコミュニティづくり活動助成　選考委員

地域交流会は、市民まちづくりの先進地を訪れて先進地の活動を学び、参加者同士のネットワークの構築を目指して2014年から開始しました。コロナ禍で3年間開催できませんでしたので、4年ぶりの開催となります。今回は60名ほどの参加を得て賑やかな会合となりそうです。開催にご協力いただいた「機那サフラン酒本舗保存を願う市民の会」をはじめ、長岡市、地元の関係者、また、今年度のコミュニティ活動助成団体の皆様に感謝します。

水流 潤太郎氏
機那サフラン酒本舗保存を願う市民の会　会長

私どもの会は10年間以上活動を継続していますが、5年前にサフラン酒本舗の用地を長岡市が取得して、建物は個人の所有者から市に寄贈されて本舗の保存が決定しました。そして、建物の管理・運営を担うまちづくり会社「株式会社ミライ発酵本舗」が有志を中心に立ち上がっています。
財団から助成を得ていた10年前はまったくのボランティア活動でしたが、最近は事業化に舵を切る局面も出てきました。摂田屋の良さは、風情のある歴史的建造物、醸造・発酵に関わるおいしいもの、そしてアートやデザインが相まった魅力にあると考えます。
どうぞ摂田屋で有意義な時間をお過ごしください。

当日の様子

プレゼンテーション＆意見交換

住まいとコミュニティづくり活動助成
2023年度 コミュニティ活動助成対象団体の活動紹介

テーマ1　地域資源の保存と活用により市民がまちを育む取り組み

ポイント
- 多主体連携・多世代連携・多分野連携
- 自然との調和や景観保全

鬼越の森再生プロジェクト（山形県山形市）
発表者　松本剛さん

家の前にある杉の放置林の整備を発端として活動を開始しました。間伐材を運び出すために使用した古道を復活させて遠足やトレッキングで活用されるようにするなど、地域間を重層的につなげていきたいと思います。地元住民の手助けが心強いです。自然と相対するにあたり、人間の都合だけで事を進めないことの重要性を感じています。

NPO法人せたがや水辺デザインネットワーク（東京都世田谷区）
発表者　村上ゆかさん

多摩川と国分寺崖線に囲まれた自然豊かな地域で環境教育、子育て支援を行っています。水辺の楽校プロジェクトへの参加を発端としてNPOを設立しました。道路計画に伴い、環境への負荷が少なく、地域住民に開かれた場づくりへの協力要請を地主から受けて、購入した一軒家の一階を川と海が層になって交わるような汽水の場としていきたいと思います。

NPO法人百菜劇場（滋賀県近江八幡市）
発表者　大矢沙代さん

重要文化的景観「近江八幡の水郷」に面し、琵琶湖につながる北之庄町で有機栽培による米や野菜作りなど、食育や農業体験を通して農と人をつなげる活動を行っています。助成活動として、有機農業の拠点として地域の竹やヨシを用いた農舎をつくる予定です。建設にあたっては、専門家の指導を仰ぎ、援農希望者や地域住民などに関わってもらうＷＳ形式で行い、人が集い学び合う場としたいです。

かもがわデルタフェスティバル実行委員会（京都府京都市）
発表者　浅井吉弘さん

京都御所と金閣寺に挟まれて交通の便も良い地域ですが、地価が高騰し大手資本によるホテル建設が進み、子育て世代が減少しています。更新時期が到来した市営住宅の建替えに伴い、発生する空きスペースの有効活用に住民の声を反映させることが喫緊の課題です。祭りを通して難しい環境下の地域コミュニティの分断を乗り越えて、まちづくり協議会の組織化を目指します。

コメント

木下勇氏（ハウジングアンドコミュニティ財団　評議員）
昔と今をつなげる、新旧の地域資源をつなげる取り組みを興味深く拝聴しました

松本昭氏
これまでの合意形成型のまちづくりから価値観の多様化に伴い、賛同共感型（共存、共生）に移行している中で、市民活動はどうあるべきなのかが問われているのではないでしょうか。

テーマ2　若者の参画や地縁組織の活用により地域の持続性と活力を育む取り組み

ポイント
・活動の持続性や承継における若者（大学生、中高生）の巻き込み
・地縁型コミュニティと良好な関係性の構築

不動プロボノネットワーク（東京都目黒区）
発表者　沖尚志さん

林業試験場や目黒競馬場の跡地、目黒不動尊が身近な地域で、町内の小学生の父母がハロウィンイベントを開催したことを発端として設立された団体です。学びと実践を通して子どもから大人まで、地域課題の解決に取り組んでいます。今年度は目黒競馬場等の地域の歴史について古老から話を聞き、人や街の足跡をまとめたリーフレットを作成します。併せて、古本寄付を活用して総合的福祉施設に「本」を題材とした多世代交流の場をつくる予定です。

真鶴カメラ（神奈川県真鶴町）
発表者　仁志しおりさん

バブル期の乱開発から条例「美の基準」によって町の暮らしと景観が守られた神奈川県の最南端、人口7,000人弱の漁師町です。全国で展開中のローカルフォト（写真によるまちづくり）の仕組みを基に結成された団体です。座学と実習によりカメラを通して住民の主体的な地域課題解決力を養っています。今年度はまちの魅力の再発見、内外ファンの発掘、住民の誇りの醸成、移住促進へとつなげていく予定です。

Let's try project（長野県須坂市）
発表者　井上陽介さん

長野市と小布施町の隣りの市で人口5万人、若者が通り過ぎるまちと言われています。地元の高校と地域との関わりが少なく、まちに高校生の居場所もないことから、古民家を高校生と大人で改装し、高校生の自主学習施設、高校生の発案による地域との交流拠点をオープンしました。長期的な運営資金の捻出方策として企業のスポンサーを募り、現在の活用物件の隣りに出店予定のカフェの改修も高校生と一緒に進めていきます。

NPO法人好きっちゃ北九州（福岡県北九州市）
発表者　入門真生さん

地域愛の醸成をテーマとして、北九州市内の130の小学校区単位で主に防犯・防災活動を展開していて、子ども達が遊びながら防災を楽しむ「あそぼうさい」は人気があります。現在行われている防犯パトロールの冒頭に、学びのエキスを盛り込んだ紙芝居を披露して機械的な活動を打破したいと考えています。紙芝居の読み手には若者を起用し、連携関係を有する学生たちにも関与してもらうなど、多世代による地域参画活動として全国への波及を目指します。

コメント
小場瀬令二氏（ハウジングアンドコミュニティ財団　監事）
若い人の発想は魅力的です。
真鶴カメラ：ソーシャルキャピタルをつくる道具として地域を巡って資源を視覚化する取り組みは、他地域においても大きなヒントになります。
好きっちゃ北九州：黙々とまちを行進して解散するだけのマンネリ化した防犯パトロールの再活性化は興味深いです。

テーマ3　共助により地域の絆と福祉などを高める取り組み

ポイント
・福祉、介護、健康　×　まちづくり
・共助と活動の持続性

森の里朝市運営委員会（神奈川県厚木市）
発表者　髙村真和さん

丹沢山系の麓にある自然豊かな地域で昔から交通の要衝の地。高齢化率が47％と高く、大きな団地内のスーパーが一番低地にあるので買い物に不便を感じる高齢者が多く存在します。高台の住宅地の真ん中で月２回、地産地消、地域活性化、地域福祉に重点を置いた朝市を開催しています。今年度はHPやSNSを活用して子育て世代、若者世代にも活動を発信するとともに、農福連携や食育にも取り組む予定です。

NPO法人はっぴーはーと（新潟県上越市）
発表者　青木貴子さん

上越市と周辺地域で産前産後ケア、子育て支援を行っています。母親への負担が偏るワンオペ育児の軽減に向けて、助産師、保育士、看護師による赤ちゃんの預かり事業を1時間単位で対応しています。赤ちゃんの送迎時には母親の育児相談を行うなど、産後うつや乳幼児虐待を予防し、母親同士が出会い交流できる場（健康や食の講座など）も提供しています。楽しく子育てができる地域社会の実現を目指しています。

NPO法人西脇てとて広場（兵庫県西脇市）
発表者　東野由美子さん

西脇市は、東経135度・北緯35度の交差点がある「日本のへそ」のまちです。一軒の古民家で、生きづらさを抱えた18歳までの子どもの居場所づくり、子どもの発達相談、学習サポートなどを行っています。コミュニケーションが苦手な子どもが、地域の人との関わりの中で自分の居場所を見出していきます。昨年度の居場所総利用者数は2,000人超に及び、今年度も居場所を利用する子どもの成長を見届けたいと思います。

NPO法人まんなか（岡山県岡山市）
発表者　岡田直子さん

ママ友が中心となり、閉園した幼稚園を活用して子ども達がのびのび遊べる場所、多世代交流拠点づくりを行っています。町内会との連携が強いことが特徴で、岡山市のPR動画にも休眠資源活用事例として取り上げられました。ですが、幼稚園舎の活用は暫定的なので、常時利用、市の事業委託を目指すとともに、地元企業との協働で出張子育て広場を自立事業につなげていきたいと考えます。

コメント
梅宮路子氏（住まいとコミュニティづくり活動助成　選考委員）
赤ちゃんを預ける場所の必要性を改めて感じました。東京では働いていないお母さんを前提とした預かり施設となっています。本日の発表のように民間からの赤ちゃんの預かり事業の提案は意味があると感じます。
松本昭氏
従来一緒になり得なかった福祉や介護などとまちづくりの掛け合わせが全国的な傾向になり、大きな割合を占めるようになってきました。昨年度の助成対象にも、病院内では解決できない孤独や孤立を抱える住民に、医療福祉関係者がまちに繰り出してコミュニティを処方する「社会的処方」活動がありました。少子高齢化で、触れ合いや助け合いによって育まれる持続性が求められているのではないでしょうか。

全体を通したコメント

渡邉誠介氏　機那サフラン酒本舗保存を願う市民の会　常任委員
長岡造形大学　教授

本日は日本中で様々な活動がなされていることを知り、心強く感じました。摂田屋地区には長岡造形大学をはじめ、長岡大学や新潟大学の学生もまちづくりに関与していて、昨年は、新潟大学の学生の発案で摂田屋地区の歴史・文化・食を親子で楽しく学ぶお仕事体験イベント「セッタニア」が開催されました。好評を博しましたので恒常的な催しになればよいと感じます。

また、年に1回、長岡の「発酵」をテーマに食と体験で発酵を楽しむイベント「HAKKOtrip」も行われていて親子で楽しむプログラムも用意されています。摂田屋地区にも子育て世代がベビーカーで気軽に遊びにきて、子供たちにこのまちの良さを感じてもらえるようにしていけたらと考えます。

機那サフラン酒本舗保存を願う市民の会　活動紹介

市民主体の摂田屋まちづくりのこれまでとこれから

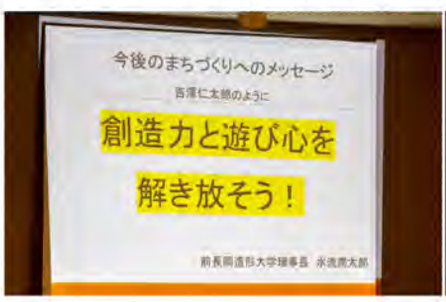
平沢政明氏　機那サフラン酒本舗保存を願う市民の会　事務局長

摂田屋は主に戦国時代から続く歴史があり、酒・味噌・醤油といった醸造業が現在も盛んな町です。そして太平洋戦争で市街地のほとんどを焼失した長岡にあって、明治・大正の建物が残り、レトロな雰囲気を醸している貴重な街並みを残していると言えます。２００４年この街並みの存続が危ぶまれる事態が生じました。新潟県中越地震は摂田屋にも甚大なダメージをもたらした。建物は大きくゆがみ特に土壁はことごとく崩れてしまい、元の姿に戻すことは困難と思われました。このままでは地域の良さが失われてしまう。私たちは蔵元を中心にNPOを組織し、景観を維持しながら地域を活性化する町おこし活動をスタートさせました。

活動を進める中で地域を学ぶ機会も増え、この地の蔵元のひとつ「機那サフラン酒本舗」がとても個性的で魅力的な文化財であることが判ってきました。しかし残念なことに明治・大正・昭和と一世を風靡した蔵元はこの頃にはかろうじて製造を続けている程度、建物は地震の影響だけでなく戦後衰退し、手入れが行き届かなくなってから半世紀を経て経年劣化も進み、このままでは存続が危ぶまれるような有り様でした。

なんとか残すことができないだろうか、私たちは所有者の了解を取り、ボランティアを集め荒れ果てた庭園の草取りから始めました。広大な敷地には庭園の他にも贅を尽くした建物が多数残り、これらを後世に残すことはとても遠大な夢と思われました。最大の理由は存在自体が世の中から忘れ去られていたからです。長岡市民はおろか地域の住人でさえほとんど見たこともないのが実態でした。

平成25年「機那サフラン酒本舗保存を願う市民の会」を立ち上げ市民運動として保存活動を開始し、募金を集めました。灯篭を積み直し、雨漏り防止工事を行い、ボランティアによる草取りを毎年重ね、荒れ果てた屋敷内も少しずつ片付け、皆さんに見ていただける部分を徐々に増やしながら公開にこぎつけました。並行してこの文化財の魅力を伝える様々な活動も精力的に続けました。やがて努力の甲斐あって全国から多くの見学者が集まるようになり、この貴重な文化財を是非残すべきだという市民の声も大きくなってきました。平成２８年に保存を願う市民の会の有志がまとめたレポート「サフラン酒本舗を摂田屋観光の拠点に」を長岡市に提出し、平成29年これを受ける形で長岡市は機那サフラン酒本舗取得を発表し観光拠点として整備することを決定し、令和2年米蔵を改修し、駐車所を整備して旧機那サフラン酒本舗は観光施設としてスタート致しました。「保存を願う市民の会」は現在も活動を継続しています。長岡市は当初計画で10年かけて旧機那サフラン酒本舗の整備を行うというものでしたが、現時点ではさらに先に伸びそうです。私たちは現在も本舗の維持管理のサポートとして見学対応や清掃草取りを継続しています。施設の保存整備は行政に受けていただきましたが、最良の形でこの素晴らしい文化財を残す為に、行政に協力してボランティアとして魅力の発掘と維持管理にあたっていけたらと考えております。



機那サフラン酒本舗保存を願う市民の会への質問と回答

Q **機那サフラン酒本舗の面白さは、建物の珍しさのみならず、吉澤仁太郎さんの生前のエピソード(花火でお寺を燃やしたことや長岡で最初にオートバイに乗ったことなど)にもあると思います。建物の保存だけでなく、こうした仁太郎さんの人柄について語り継ぐことについてはどのようにお考えでしょうか。実際にすでにそのような取り組みがあったりするのでしょうか。**

鬼越の森再生プロジェクト　松本剛さん

A 機那サフラン酒本舗の魅力は、創業者吉澤仁太郎の人物としてのユニークさに起因するものが大きいと考えております。実際には紹介しきれていないものも多く、さらには調べ切れていないのが現実です。現在の取組としては公開のガイドの解説と公開時はイラスト化して展示していますが、今後はさらにわかりやすく発信できるように当会の仁太郎ワールド再生会議で話し合っています。

Q **夢の実現を感じさせる素晴らしいネーミングです。ミライ発行本舗(株)の名前の由来は?。皆さんからの発案ですか?平沢政明さんが熱く語っておられる『次代を担う人づくりに注力しなければ』について創造力、遊び心、...具体的にどのような若者を? どのような手順で?**

森の里朝市運営委員会　髙村真和さん

A まちづくり会社「ミライ発酵本舗」は初代社長である高田清太郎さんが命名しました。コトとモノとヒトが「まざる、つながる、生まれる」を合言葉にフツフツと発酵する感動を創ることを目指しています。時代を担う人づくりについては、摂田屋を面白くしてここで活動できる場所や交流人口を増やすことだと思っています。さらに収益が上げられ、生活できる人が増えればおのずと地域の将来を考える人が増えるでしょう。どこまでを若者というかわかりませんが、創造的思考を持ち気持ちが若ければ実年齢はあまり関係ないような気がします。

Q **これまでの約 20 年間の歩みを伺い、その成果が街並みとして表れていることに強い感銘を受けました。その歩みは貴会があったからこそではありますが、長きに渡り途切れることなく活動が続くことについて、運営メンバーと市民の巻き込みを単発ではなく継続していく観点では、どの様な工夫をされていたのか教えて頂けないでしょうか。**
また、運営メンバーと市民の両面での世代交代についてはどの様に進められているのかもコメント頂けると幸いです。

不動プロボノネットワーク　沖尚志さん

A 基本的には楽しく活動できること、会議や作業の後は交流会を行うこと、事故を起こさぬことでしょうか。活動は一般市民に向けシンポジウムやイベントを行い確認と同時にメディアにも働きかけ情報発信を共有し、共感者の輪を広げることに心がけています。実戦部隊(ボランティアスタッフ)には会議出席を強要せず気楽に参加できるようにしています。保存を願う市民の会は会費や入会金はいただいておりませんので、比較的参加しやすく、多少の世代交代はなされています。

Q **皆さんの『市民力』からスタートした一連の取り組みに敬意を表します。行政だけに頼らず、自分たちで造っていくんだという心意気と力強さを感じました。また、きちんと組織立てて活動されており、世代交代を含めて、皆さんのモチベーションをつくっていっていることに感銘を受けました。規模感は違えど、ぼくたちの活動にも活かせるものとして学ばせていただきました。ありがとうございます。**

NPO法人好きっちゃ北九州　入門真生さん

A 素晴らしい文化財が廃墟のように存在し、そこで自分たちでもできることがあり、できることからやってきました。活動は非日常のものであり、これに生きがいを感じることができました。ここに集う仲間・ネットワークが素敵だったし、物語もできたと思います。おそらく最初から行政主導ですとこうはいかなかったと感じています。

参加団体のまちを歩いた感想

発酵食作りが大好きなので、醤油や味噌、お酒の発酵蔵で溢れる摂田屋のまちは歩いているだけでワクワクしました。
もっとしっかり時間をとってゆっくり歩いてみたいと思いました。

鬼越の森再生プロジェクト　松本剛さん

新潟を訪れる機会が初めてで、豪雪地帯ならではの設備や工夫が見られて、興味深かった。家と家の間が大きくとられた街並みそのものからゆったりとした雰囲気が感じられた。
一つ一つの家が大きく、趣のある外壁や屋根瓦が印象的でした。

NPO法人 まんなか　岡田直子さん

機那サフラン酒本舗を中心とした摂田屋地区については、立派な観光名所であると率直に 感じました。経緯を聞くことが無ければ、行政が最初から歴史的建造物を残し、観光資源として活用していると感じるほどで、まさか消えゆく可能性があったとは気づかないほどです。
今回は保存会の平沢様からの経緯を伺った後に、まちを歩きましたので地域の文化的資 源に注目し、残すや結果的に残せない等は紙一重でもあることに気づくことが出来ました。同時に、今年度ご支援頂いている自分自身の活動に照らしたときに、東京目黒の元競馬場という歴史的所縁にどの様に光をあて、地域住民に何を伝えるのか、感じてもらうのかを、より深く考える必要があるとも感じました。

不動プロボノネットワーク　沖尚志さん

摂田屋に向かう宮内商店街で見かけた閉店となった飲食店。
接待屋(せったいや)と言われるくらいです。かつては賑わっていたのでしょう。美食のまち、美味しさを振舞うお店の復活を感じました。
醸造/発酵をベースにした新しい食品、名物品が どこかに潜んでいるのでは、と感じました。
下車した宮内駅の西口側(宮栄)を散策、目にした宮内小学校の開放感。周囲の囲い、校門、鉄扉もなく、もちろん防犯カメラなし。あるのは二宮金次郎の銅像。交流会で述べておられた「創造力と遊び心を解き放そう!」これは既に小学校の姿に備わっていると感じました。

森の里朝市運営委員会　髙村真和さん

まち全体が、文化であり、アートであり、願いであることを感じました。目に見えないものを大切にしているというのか、物理的に表せないもの。気持ちだったり、心だったり、神だったり、文化だったり。そんな美しさを感じました。『また行きたい』と願うまちだと感じました。
十年とか、少し先になると思いますが息子・娘がお酒を飲める年になりましたらみんなで再び訪れたいと思います。
そのときは、今よりも、もっともっと素敵なまちになっていることだろうとぼくからプレッシャーをかけておきます(笑)

地域は遠く離れど、それぞれの故郷を思い、活性化を願う市民の力で、自分たちのまちを盛り上げていこうという気風は同じです。
「頑張ってください!」ではなく、『お互いに頑張りましょう!!』
ありがとうございました。

NPO法人好きっちゃ北九州　入門真生さん

摂田屋地区まち歩き

摂田屋は太平洋戦争での長岡空襲の被害が少なく、明治・大正時代の建物がいまなお多く残っています。
江戸時代には東京・上野の寛永寺に寄贈され天領(江戸幕府の直轄領)となり、ご領地として醤油・味噌・酒などの
醸造業が発展し「醸造のまち」になりました。現在も5つの蔵元が残り、どこか懐かしい景観をつくりだしています。
当日は4班に分かれて、まち歩きを行いました。ガイドボランティアの方から
旧機那サフラン酒製造本舗、吉乃川酒ミュージアム醸蔵、越のむらさき、
星野本店、長谷川酒造の蔵元を中心にお話いただきました。

懇親会の様子

懇親会では摂田屋で大正時代から続く割烹・鮮魚仕出し料理の「割烹 新喜屋」さんで行いました。
県内外からお越しいただくということで厳選した地元食材を活かした新潟県
長岡市の郷土料理を中心に提供していただきました。みなさま、摂田屋で
つくられた発酵食品を使用した料理や日本酒を楽しみながらまちづくり・
まちおこしについて活発に意見交換していただきました。

一般財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団

ハウジングアンドコミュニティ財団(以下「本財団」)は、豊かな住環境の創造に貢献することを目的に、平成4(1992)年に
財団法人として設立されました。本財団では、世代を超えた良質な住環境をつくり、活力ある地域社会を構築するためには、
市民の自発的な地域づくり・住まいづくりが不可欠と考え、このような活動を支援することを社会的使命として参りました。
1993年から開始した「住まいとコミュニティづくり活動助成」のこれまでの助成対象団体数は483団体にのぼります。

地域交流会
市民活動団体の交流の機会を増やし他団体の活動の実態に触れることを目的として、2014年から開催しています。

第1回(2014年)開催地：三重県伊勢市
第2回(2015年)開催地：新潟県上越市
第3回(2016年)開催地：兵庫県たつの市
第4回(2017年)開催地：広島県尾道市
第5回(2018年)開催地：福井県小浜市
第6回(2019年)開催地：石川県金沢市
第7回(2023年) 開催地：新潟県長岡市

Housing and Community Foundation
一般財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団
〒105-0014　東京都港区芝2-31-19　バンザイビル７Ｆ
TEL　03-6453-9213(土日祝日を除く午前9時半～午後5時半)
www.hc-zaidan.or.jp